

# 子どもを中心につなげる しまねの幼小連携・接続



## 幼保小の架け橋プログラム

子供に関わる大人が立場の違いを超えて自分事として連携・協働し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮したうえで全ての子供に学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものです。

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）文部科学省 令和4年3月31日より

本書では、幼稚園、認定こども園、保育所を「幼児教育施設」、幼児教育施設と小学校の連携・接続を「幼小連携・接続」、幼児教育施設勤務者を「保育者」、小学校勤務者を「教職員」として記載。

島根県幼児教育センター

（島根県健康福祉部 島根県教育委員会）

# 架け橋期(2年間) 5歳児～小学校1年生

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期



5歳児は、それまでの経験を生かしなが  
ら新たな課題を発見し、新しい方法  
を考えたり試したりして実現し  
ようとしていく時期

小学校1年生は、自分の好きなことや  
得意なことが分かってくる中で、それ  
以降の学びや生活へと発展していく  
力を身につける時期



小学校教育で育成する資質・能力

幼児教育で育成する  
資質・能力

小学校入学

幼児教育で育成した資質・能力  
(土台として)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」  
(幼児教育と小学校教育をつなぐ手掛かりとして)

## 架け橋期のカリキュラム (例)

0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
	<p>幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるよう工夫する</p>		

幼児教育施設長・校長を含む幼保小の先生の協働で作成



### 【共通の視点として考えられる項目例】

- ① 期待する子供像
- ② 遊びや学びのプロセス
- ③ 幼児教育施設で展開される活動 / 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
- ④ 指導上の配慮事項  
保育者 / 教職員との関わり  
環境の構成・環境づくり

### 【作成にあたって】

- 共通の視点から考えてみましょう。
- 既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみましょ  
う。(架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位  
置づけについても考えてみましょう。)
- 既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみましょ  
う。(架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位  
置づけについても考えてみましょう。)

## 研究課題

# 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について

雲南市立斐伊こども園 雲南市立斐伊保育所 雲南市立斐伊小学校

### 取組内容

#### 取組①

##### 管理職会を毎月行う

- 中学校区保幼こ中管理職会に併せて開催
- 管理職会前 30 分間
- 連携推進に向けた取組について協議
- 管理職同士の共通理解を図る

##### 全校体制で取り組む（小学校）

- 1 年部（低学年部）のみに任せない
- 『だれもが担任』
- 全教職員でスタートカリキュラムや接続カリキュラムを綴じたファイルを持つ

#### 取組②

合同研修会を開く

前半：保育公開 後半：グループワーク

幼児期が終わるまでに育てほしい「10の姿」で分類（R 2,R 4）

斐伊小の「めざす子ども像」で分類（R 3）

##### 【大切にしたこと】

- 「ステキ見つけ」をする
- 同じ時に、同じ場所で、同じ子どもを見る  
（小学校教職員と保育所・こども園保育士で）



交流活動での一場面  
（一緒に踊る1年生と近隣幼児教育施設の年長児）

#### 成果①

- 幼小連携・接続を推進する原動力  
・ 管理職のリーダーシップ  
・ 方向性の共通理解と見通しをもった活動計画
- 小学校の本気度、思い  
・ 保こ小の職員同士の関わりが広がり、深まった

#### 成果②

- 幼児教育と小学校教育の相互理解  
・ 「分かってもらえた」安心感と信頼関係  
・ 幼児教育と小学校教育のつながり（育ちのつながり）を実感
- 保育観と教育観の相互理解  
・ 話が弾み、つんと親しくなれた

#### 成果●と課題◆

- 心のハードル（精神的な垣根）が確実に低くなった！  
・ 保こ小みんなで「斐伊の子」を育てる一体感
- 接続期における安心感  
・ 子どもたち、保護者が感じる安心感
- ◆ 育てていきたい接続期のワクワク感

## 研究課題

# 幼児教育の質に関する認識の共有、家庭や地域との連携の在り方について 松江市立母衣幼稚園

### 取組内容

#### 取組①

##### 学級だよりの発信から家庭との幼児教育の質の共有

- 学級だよりを通した保護者とのやりとり『カラフルレター』
- 学級だよりをタイムリーに発信
- 学級だよりの連絡帳のあり方を見つめ直す
- 保護者の心をつかむための工夫



「みんなでどろんこおんせんだ！」  
（心と体を開放し夢中になってどろんこ遊びを楽しむ年長児）

#### 取組②

##### 地域との交流をイベントや発信で終わらず、お互いの意識をつなぐ

- 地域との関わりで子ども達に育つものは何か、何を大切にすべきか整理する
- 交流会のもち方の工夫
- 今できていることを価値付け、整理したことを関連付け、新しい関わり方を工夫し実行する（お散歩ボランティア）
- 子ども達と一緒に歩きながら交流の中で地域に心を寄せる活動へ

#### 成果①

- ・ 『カラフルレター』『学級だよりの』『連絡帳』のそれぞれの良さを活かした取組から、保護者との関わりを深めることができ、学級経営にもつながった。

#### 成果②

- ・ 教師の意識・関心の視点を定めることで保育で願うものがよりはっきりと見えてきた。
- ・ 今までの関わり方を振り返り、その意味や背景を知ることで“地域の中の幼稚園”としてどうあるべきか考えるきっかけになった。

#### 成果●と課題◆

- 様々な人、機関と対話を通じた双方向の関係を築いていくことが相互理解を深めていくと感じた。
- ◆ 小学校との連携をより深めていけるよう、組織的、継続的な取組を積み重ねていく。

# 架け橋期のカリキュラムについて、幼児教育施設・小学校での具体化の進め方（各フェーズ）のイメージ

## 基盤づくり

- 幼児教育施設・小学校での活動の共有
- 子どもの交流

## 検討・開発

- 共通の視点をもとに内容の検討・開発
- 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解
- 子どもの交流の推進

## 実施・検証

- 幼児教育施設・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証
- 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用
- 子どもの交流の充実

## 改善・発展

- 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム
- 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実
- 持続的・発展的な子どもの交流実施

## オンデマンド研修動画を作成しました

令和5年4月公開

架け橋期の教育を充実させるためには、幼児教育と小学校教育の違いを理解したうえで、幼小連携・接続を推進することが大切です。島根県幼児教育センターのオンデマンド研修動画シリーズを幼児教育施設、小学校での幼児教育施設内、校内研修等でご活用ください。

I	なぜ幼小連携・接続が必要か
II	① 幼児教育の役割と特長
	② 幼児教育で育つ力【演習】
III	① 接続期の子どもたち
	② スタートカリキュラム作成のポイント
IV	特別支援教育と幼小連携・接続
V	雲南市立斐伊小学校区での取組 ～R4年度 幼児教育推進研修 実践発表より～

オンデマンド研修動画シリーズの  
視聴はこちらから



[https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/kosodate/youji\\_kyoiku/ondemand/](https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/kosodate/youji_kyoiku/ondemand/)

研修動画を視聴するには、パスワードが必要です。パスワードは令和5年4月までに県内の幼児教育施設と小学校にお届けします。

子どもたちは、幼児教育での充実した生活や遊びの中で得た自信や達成感を胸に、たくさんの希望をもって入学します。そういった中で、幼児教育施設で培った一人一人の子どもを安心して発揮できるようにすることが周りの大人の使命です。

担当

島根県幼児教育センター

島根県松江市殿町1番地 島根県教育庁教育指導課内

TEL 0852-22-5421 FAX 0852-22-6026

島根県幼児教育センター

検索